

令和 7 年度 重点目標・達成指標と重点的取組・取組指標と学校関係者評価(第 1 回) 実施日 7月 【九重町立東飯田小学校】

【教育目標】

確かな学力を備え、協働し自ら考え行動する児童の育成
～学ぼう・伝えよう・繋がりよう～

【育成を目指す資質・能力】

- 主体的に学ぶ力
- 読解力
-

重点目標		達成指標	重点的取組	取組指標	評価者からの意見
知識及び技能の習得	基礎基本の知識と育成(学ぼう)	国語・算数の単元末テストの「知識・技能」の領域で標準期待値を超える児童の割合70%以上 国語72% 算数71%	学校 ○個に応じた少人数指導の実施 ○ドリルタイムの複数指導の実施	○全教職員での算数・国語の単元末に個に応じた少人数指導を実施する。 肯定的評価89% ○全教職員で週2回のドリルタイムの指導を行う。 算数・国語のサイクルで復習を行う。 肯定的評価89%	・少人数指導を継続していく。少人数指導を行う際に、学級の実態を支援者で事前共有し、効果的に指導できるようにしていく。 ・達成目標の達成のために、現在活用しているeライブラリに加えて、テスト前には紙面で読み、書く活動も取り入れていく。
			家庭 ○家族読書の推進 ○静かな家庭学習時間の設定	○学期に1回ノーメディアデーを設定し、配信メールで周知し、家族で読書を行う。 ○肯定的評価90%	・毎年少しずつ改善をし、定着を図っている。中学生の兄弟がいなくても、中学校のテスト期間中に合わせてノーメディアをすることでメリットもあるはず。 ・ノーメディアの趣旨には賛成しています。ただ、なかなか定着させることが難しい。ノーメディアの日は前向きに取り組めておらず、「メディアができない日」という感じでネガティブな取り組みになっています。地域ぐるみで運動して夕方からの外遊びや「ナイトウォーク」ホテルを見に行くなど、メディアから離れたくなるような仕組み作りがあるとよい。 ・ノーメディアはやはり良い取り組みだが、そろそろ中身を変えるべきではないかと思います。このままだと、だんだん、なんとなくやったという風になりそうな気がします。 ・メディアの中で生きていくのが当然の時代になり、便利だけどこか自由がない気がします。今は昔に比べると時間に追われ、気持ちに余裕が持てなくなった時代だからこそ、このノーメディアは大事に思います。子どもたちのほうから「今日はノーメディアだ」と残念そうに(ゲームができず)言ってきますが、メディアから離れた時間は子にも親にも必要な時間のように感じます。本と一緒に読んだり、読んでくれたり、教わることはたくさんです。この肯定評価の90%がそれを表しているように思います。続けていけるとよいです。
			地域 ○放課後チャレンジ教室での知識・技能習得	○公民館主事が毎週水曜日、公民館で行事の中で体験や工作などを実施し、取り組む姿を通じ評価する。	・自宅にいればゲームなどの遊びに時間を使うであろう中に、体験を通して物事の知識を深め、技能を習得できることは貴重な学びであると思います。楽しそうな笑顔も多いです。 ・今年の宝っこ夢フィールドは、6月より毎週水曜日にこれまで7回ほど実施をしてきました。特に1年生は工作のやり方がわからなくなり思い悩んでいる子がほとんどでした。雰囲気慣れるまで結構時間がかかっていました。4月に入り少し落ち着いた様子でした。毎回内容が違うので戸惑いもあるのかもしれませんが。 ・1年生から6年生まで32人が参加。毎週水曜日の15時から活動している。1学期は「ちまきづくり」「紙トンボ」「花を植えて、街並みに配布」「ちぎり絵」「おきあがりこぼし」に取り組んだ。6班編成として活動支援員の指導の下、活動サポーターが各班に入って作業に関する知識と技術を個別に教えることができた。しかし、年齢の幅が広いこと、個人差があることなどから全員が一定のレベルに達するには至らなかった。
思考力、判断力、表現力の育成	自らの考え、成(深め、相手・目的意識を持ち表現する)	国語の単元末テストの「読む」領域で期待値を超える児童の割合70%以上 74%	学校 ○国語の「読むこと」の単元で言語活動を取り入れる。	○物語や説明文をもとに、紹介カードづくりやリーフレットづくりなどの言語活動を取り入れる。 肯定的評価100%	・読み物教材を紙芝居にしたり、絵にしたりして内容を確認する言語活動を続ける。 ・紙芝居や絵、音読劇などを発表するという大きな目標に向かって取り組む計画を立てる工夫をする。
			家庭 ○音読への意欲の向上	○保護者は、週1回以上子どもの音読に向き合って聞く時間を持つ。 肯定的評価91%	・東飯田小は読書の取り組みをしっかりとっていると思う。100%を目指して取り組めたらよい。 ・音読は学力だけでなく、親子関係づくりにもとても良いと思います。ただ、「テキストを読むだけ」になっているので、上手に読むこと、話し方大会に向けた練習という位置づけでもよいかもしれません。 ・音読の宿題がない学年があり、少し驚いているところです。また、郡外の小学校の話では、音読を保護者が聞くことすらないということも聞いたので、個の取り組みが素晴らしいことなので、続けていけたらと思います。 ・宿題を通して音読を聞いています。当然ですが、初めて読むときと回数を重ねて読むのでは明らかにすらすらと上手に読みます。チェックする項目がありますし、「どうやった?」と聞かれるので◎ではなく○をつけると残念があります。真剣に取り組む姿に、真剣に聞かねばなりません。
			地域 ○公民館活動での、児童の承認・認知の実施	○公民館主事が毎週水曜日、公民館での行事体験や工作などの活動で、スタッフに認知、賞賛の声かけをしお祝いし、アンケート調査を実施する。 ○礼儀正しい言葉遣いの指導をするともに肯定的評価をする。	・宝っこ夢フィールド(2時間)の中で上級生が下級生を指導し世話する姿がいいなとみています。縦のつながりはとても大事だと考えます。ただ、言葉遣いが悪い、「はい」の返事が良くできません。スタッフはボランティアの方ですが、人の言うことを聞くこと、時間のけじめをつけることなど、生活上の基本的なことができていないのは少し残念です。(声掛けはしていますが…) ・指導員のスタッフが常に7人から8人で6班に分け他グループを回りながら指導していますが、作業工程はなるべくほめながら完成に向けてエスコートしています。 ・放課後チャレンジ教室において10人の活動支援員とサポーターは、個人の名前を呼んで頑張っている姿に賞賛の声掛けを行っていた。しかし、場面によっては、注意が必要なこともあり、肯定的な評価だけではなかった。一人の児童がふざげることで他の児童が作業に集中できなかったり、危険が及ぶ状況では強い指導を行った。また、スタッフに対して乱暴な言葉遣いをする児童もいたが、徐々に改善されつつある。
学びに向かう力、人間性等の涵養	の自主的に行動し、他者との協働を図る態度	「自主学習は楽しい」の児童アンケート(4年生以上)で肯定的評価80%以上 96%	学校 ○児童を主体とした授業改善 ○高学年で自主学習に取り組む	○学期に2回程度協調学習に取り組む 肯定的評価60% 2週間に1回以上自主学習を取り入れる 肯定的評価100%	・1学期の取り組みの肯定的評価が60%なので、2学期も実施に向けて取り組みを継続する。 ・1～3年生で自主学習を実施する場合、5種類のプリントを用意し、まずは、どれに取り組むかを自分で選択できるようにする。 ・自主学習の紹介コーナー(廊下)の更新頻度をあげることで、取り組みの意欲を高める。ロイロノートで児童の自主学習の内容を共有させることで、友だちのやり方を学び、内容のレベルの改善に繋がれるようにする。今後子どもたちの学びたい気持ちを大切に取り組ませたい。
			家庭 ○家庭での学習習慣を定着させる	○月に1回以上子どもの自主学習と一緒に取り組む 肯定的評価49%	・家庭での学習定着が半数以下にびびりました。どうしたら月1以上一緒に取り組めるかを見つけていく。 ・テーマを見つける力には育ちません。ネット検索に頼らず、人に誰を聞いてまとめるスタイルを主にしてもよさそうです。人にやらされるのではなく、自分事として小さな成功体験を積み重ねることが大切だと考えます。 ・なかなか一緒に取り組めない。いつ出ているのかもわからないので、そういう内容も連絡アプリで教えていただけると助かります。 ・何を、どのように取り組んだらよいのかわからない人が多いかもしれません。自分も含め…
			地域 ○公民館活動で児童の主体的な活動の場を作る	○活動内容を児童とともに考える	・宝っこ夢フィールドの活動は、毎年同じような内容です。なので、2年3年と参加する子どもには物足りない、少し飽きたもののようです。自分の好きな活動には積極的に取り組む姿は見られます。実験などを入れた活動も必要ですね。検討します。いかなる時も興味を持って自主的に行動、他者との協働を図れるように努力していきます。 ・完成した見本を見ながらどうすればこんな形になるのかを考えてもらい、作業が行き詰ったときにフォローしています。 ・6年生を対象にしたジュニアリーダー研修では、活動の内容は主催である育成協と公民館で決めたが、子どもたちの主体性を育むとともにリーダーとしての資質を高めることを目標としてスタッフの手を借りずに子どもたちだけで活動する場面を作った。最高の結果ではなくても、結果に至るまでに時間がかかっても友だちと相談しながらそれなりにゴールすることができた。反省点は、児童全員が協働の意識を持てたとは言えないこと、スタッフが我慢できずについつい児童の仕事に手を出してしまう場面があったことの2点があげられる。
働き方改革の推進	持続可能な働き場の創造のある職	在校時間を町平均以下にする 100% (4～6月)	学校 ○毎月1日分以上年休を取得する	○月初めに計画年休を設定する。 毎回呼びかけ 取得率27%	
			○定時退庁日を設定する	○実施率100% 実行率65%	